

## 2022年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

### 1 めざす幼稚園像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。  
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

### 2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
  - ・創立者ドン・ボスコならびにマリア・マザレロの精神を受け継ぐべく、教職員研修を深める。
  - ・アシステンツァの理解を深め、「良心的な人間、よき社会人」としての礎を育成すべく、あらゆる教育活動の実践につなげる。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
  - ・時機に応じた避難訓練の実践を通じた安全教育を行う。
  - ・子どもの安全、保護者の安心を具現化した教育環境整備の充実を図る。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
  - ・園内外の研修会の深化充実及び、獲得したスキルの伝達講習の実践。
  - ・新しい定義における学力（生きる力）を醸成する指導法の研鑽。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
  - ・園児が他校種の児童・生徒と交流できる機会を設ける。
  - ・教職員間の意見交換の場の設定を図る。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
  - ・城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p>&lt;評価が相対的に高かった10項目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○行事が楽しい</li><li>○教育方針への共感</li><li>○教職員の気持ち良い挨拶</li><li>○教育目標への共感</li><li>○子どもの好奇心と意欲の醸成</li><li>○安全教育</li><li>○基本的生活習慣が身につく生活指導</li><li>○緊急時の適切な情報伝達</li><li>○個人情報への適切な取扱い</li><li>○全体的な本園への満足</li></ul> <p>(満足度95%以上)</p>	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2022年度学校評価に関する検討は2023年3月9日(木)に行われた。</p> <p>&lt;意見まとめ&gt;</p> <p>○コロナ禍がようやく落ち着きつつある中で、入園以来様々な制約のある中で過ごしてきた子どもたちが、卒園式に際してはマスク無しで参加できるなど、「やっと」という想いのある1年だったと思う。感染対策を実施しつつ、園児にとってとても重要な様々な行事や日常生活に工夫を凝らしてくださっていた。</p>

7. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	1. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<p>&lt;評価が相対的に低かった5項目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの感性の育成</li> <li>○子どもに関する気軽な相談</li> <li>○子どもの積極性や自信の醸成</li> <li>○子どもの応用力の養成</li> <li>○小学校との活動の連携</li> </ul> <p style="text-align: right;">(満足度66～88%)</p>	<p>○大きな行事のひとつとしてサマーフェスティバルがあるが、可能な範囲で、他校種の児童・生徒との交流するようなコーナー・イベントごとがあっても良いのではないか。学園全体の一体感を醸成する意味でも、小学生にとってはより小さな子どもたちとの交流をする意味でも、一考に値するのではないか。</p> <p>○幼稚園行事や指導方針全般に対し、保護者から賛同を得ていると思う。</p>
<p>&lt;アンケート総括&gt;ごくわずかな項目を除き80%超の満足度となっており、本園が保護者各位から高い評価を得ていることがうかがえる。なおそれらの中で「不満」との回答率が相対的に若干高い項目には留意が必要である。</p>	<p>○とても良い雰囲気で行われていると感じる。</p> <p>○例年アンケート結果が良好であり、保護者・園児から寄せられる信頼を実感できる。</p>

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度90%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
<p>1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。</p>	<p>・創立者ドン・ボスコならびにマリア・マザレロの精神を受け継ぐべく、教職員研修を深める。</p>	<p>(1)カトリック精神に基づいた教育活動の実践と、さらなる深化充実に向けた研鑽を積む。</p>	<p>サレジアンファミリーとしての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現</p>	<p>幼稚園は、教育方針に沿った教育を行っている。(満足度92.3%)</p>	<p>(○)カトリック園の研修に参加し、日々の振り返りの中でもその精神とともに、ドン・ボスコの教育理念を意識している。</p>
	<p>・アシステンツァの理解を深め、「良心的な人間、良き社会人」としての礎を育成すべく、あらゆる教育活動の実践につなげる。</p>	<p>(2)「予防教育法」の理解と実践につなげるべく研修内容を吟味し、日々の教育活動に活かす。</p>	<p>学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子どもの育成への寄与</p>	<p>幼稚園は、保護者に対してキリスト教主義に基づく教育方針の説明をわかりやすく行っている。(満足度94.7%)</p>	<p>(○)「アシステンツァ」を常に心がけ、実践を進めている。保護者の思いをしっかりと受け止めるとともに、教職員間でも共有することで、信頼関係の構築につながっている。</p>
<p>2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。</p>	<p>・時機に応じた避難訓練の実践を通じた安全教育を行う。</p>	<p>(1)防災・減災・防犯等考え得る様々な危機管理意識に基づいた訓練を実施し、体制強化に努める。</p>	<p>教職員・園児の意識改革と日常の行動変容</p>	<p>幼稚園は、子ども達に安全教育を行っている。(満足度96.7%)</p>	<p>(○)天候の都合などにより、計画通りの訓練ができないときも、できる範囲で訓練を実施し、子どもたちの意識を高めることができた。日々の保育の中でもけがの防止のために積極的に声掛けを行った。</p>
	<p>・子どもの安全、保護者の安心を具現化した教育環境整備の充実を図る。</p>	<p>(2)安全・安心に直結する教育環境(施設・設備)の整備を徹底し、危険回避を図る。</p>	<p>危険箇所や事象の迅速かつ正確な発見と対処</p>	<p>幼稚園の施設・設備は、安全管理が行き届いている。(満足度93.3%)</p>	<p>(○)月初めの安全点検だけでなく、日々、遊具や教室環境を多くの目で点検することを心がけ危険箇所は早急に補修した。</p>

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外の研修会の深化充実及び、獲得したスキルの伝達講習の実践。</li> <li>新しい定義における学力(生きる力)を醸成する指導法の研鑽。</li> </ul>	(1)カトリック園独自で行っている研修会により多くの教職員が参加し、研修を深め、スキル獲得を目指す。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実に行動し、善を選び取れる人格形成の基礎作り	教職員の心配りが行き届いている。(満足度91.9%)	(○) 対面の研修も実施され、全員が参加することができた。今後は学んだことを意識的に保育に活かせるように組織的に取り組んでいきたい。
		(2)教育要領が示す育てほしい10項目に照準を合わせた園内研修テーマを策定し、実践に活かす。	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動できる力と他者との関係における解決力の習得	子どもの応用力が養われている。(満足度79.4%)	(△) 計画的に園内研修を行い、育てたい子どもの姿を共有して、それを目指している。スキル習得だけでなく、応用力や創造性を育むためにさらに手立てを考えていく必要がある。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児が他校種の児童・生徒と交流できる機会を設ける。</li> <li>教職員間の意見交換の場の設定を図る。</li> </ul>	(1)各校種の行事を策定する際に、積極的に交流の機会を企画する。	校種間連携実践につながる行事の見直しなど積極的な行動	幼稚園は、小学校と連携した活動を行っている。(満足度66.7%)	(△) 学園全体としての行事に積極的に参加し、会議などの場でも他校種と情報共有しているが、すべての教職員に連携の必要性や重要性が意識されているところまでは至っていない。
		(2)教職員間の意思疎通を図るべく、校種の垣根を越えた場作りに努める。	校種間の円滑な連携の保護者理解		(△) 教育内容や子どもたちの校種間連携については、もっと積極的に進めるとともに、保護者にも発信していく必要がある。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。</li> </ul>	(1)社会環境を構成する包括的複合体としての諸団体・組織との連携を深め、支援の輪を拡げる。	城星ファミリーの一員としての自覚と責任感の醸成	教職員は、協力し合って保育を行っている。(満足度93.2%)	(○) 研修を進めることで、幼稚園内での協力体制については、臨機応変に行われる体制が整っている。さらに学園全体への意識を深めていく。